

Imajin21

創今  
造人

打てば響く



奈良のartist  
マリンバ奏者 松本真理子

3月11日に発生した東日本大震災でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された地域のみなさまに心よりお見舞い申し上げます。

「紙」は言うまでもなく、印刷業の生命資源です。弊社の紙の仕入先である製紙会社も被災しました。人的被害だけでなく、産業への打撃や紙不足について注視してきましたが、5月より生産活動が再開しています。今後、紙の供給は徐々に回復していくと思われまます。ご不便をおかけしたお客様にこの場を借りて、ご報告いたします。

奈良は古来、天変地異の鎮静や国家安寧を祈って、数々の寺社が創建され、仏像が生まれ、文化が創造された地であります。みなさまにお届けいたします『イマジン21「22号」』には郡山城が登場します。大和郡山藩の藩主となった柳澤吉里の父・柳澤吉保が将軍徳川綱吉の大老格となった1706年の翌年には、今回の東日本大震災まで日本史上最大とされた宝永地震（紀伊半島沖）が発生しました。当時の柳澤家も復興に尽力したことでしょう。

今号ではマリンバ奏者の松本真理子さんに「奈良のアーティスト」へご登場願いました。いつもパワーをみなぎらせる松本さんの演奏は、復興支援の大きな力となっています。日頃から懇意にさせていただいている私としてはうれしい限りです。

行動と知恵の結集が、被災地へ継続的に届くことを願っています。

代表取締役社長 近東 宏光

Imagin21



リレー連載 **世界遺産** 奈良の風景 ⑥ ..... 1～3

奈良の artist 02 松本 真理子 ..... 4～5

NARA 道の駅  ① 針テラス ..... 6～7

まちかど探索 東京都 正岡子規の足跡 ..... 8～9

Essay 印刷文化逍遙 ②② ..... 10～11

特集 奈良の城  参 郡山城 ..... 12～13

付録 葉

## 職場風土改革促進事業への取り組み

少子高齢化社会にあって、これからは益々多様な働き方が企業に求められております。一方、働く人は、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）をより重要視する中において、企業としてはそれらを必要十分に充足する環境づくりが不可欠であります。

弊社は、平成14年にはISO14001を認証取得、また18年にはプライバシーマークを取得するなど、時代のニーズに合致した経営推進に努力してまいりました。そして、労働時間等設定改善法が施行されて（平成18年）以後、社内で委員会をたちあげ「有給休暇を取得しやすい環境づくり」をめざし、残業が避けて通れない業界にあって、残業時間を少しでも減少する努力なども含め企業理念の中にある「人間生活の向上」に邁進したいと考えております。

人間生活の向上とは、従業員の仕事と家庭の両立を支援することでも大きく関係しており、具体的な取り組みは下記の通りです。

- 取組 具体的な
- ① 仕事と家庭が両立できる働きやすい会社作り（ワーク・ライフ・バランスの推進）
  - ② 育児・介護休暇制度の充実を図る
  - ③ その制度を利用しやすい環境作り
  - ④ 管理職層への研修の実施
  - ⑤ 両立支援制度の労働者への周知徹底

代表取締役社長 近東 宏光



わたしたちができる環境づくり

自然との共存を図りながら  
限りある資源を大切に使い環境を守っていく—  
私たちは時代に役立つ企業であり続けたいと考えます

編集／制作／発行  
共同精版印刷株式会社 <http://www.kspkk.co.jp/>

本社：〒630-8013 奈良市三条大路2丁目2-6 TEL 0742-33-1221 FAX 0742-33-7035  
大阪支社：〒542-0082 大阪市中央区島之内1丁目12-3 TEL 06-6271-7951 FAX 06-6271-7954  
東京支社：〒116-0014 東京都荒川区東日暮里5丁目6-4 TEL 03-3802-4741 FAX 03-3802-4740



リレー連載

# 奈良の風景

# 6

私の心象をたどる

## 遠景（名阪国道から）

——わたしの個人的なことから書き始めることをお許しください。わたしは名古屋に長く住んでいて、両親が赤膚山に家を持っていった関係から、結構な頻度で名古屋と奈良の間を車で往復していた。実は、わたし自身、五歳から高校を卒業するまで吉野に住んでいて、高校時代は奈良市内まで毎日通っていた。そういう個人的な経歴を持っている。

奈良に向かって名阪国道を走って来て、針を過ぎ、福住を過ぎると、間もなく天理までの長い下り坂にさしかかる。道路横に、*「霧多発、注意」*、*「この先、*

長い下り坂注意*」*のサインが見え始めると、*「もうすぐ奈良だ」*といつも思ったものである。下り始めて、もう少し走って、桜橋を過ぎるあたりで、*「突然」*といった感じで、左下に奈良の盆地が展開している。本当に、

*「突然に」*といった感じがする。その向こうに、奈良と大阪の境の山並みが落ち着いて見える。それが目の中、頭の中に一杯に入ってくる。わたしにとっては、なんとも印象的な風景である。*「ああ、奈良だな」*と思う。好天の時は隔々まで、細い小路や一軒ごとの家、畑に何が植えてあるか、までが本当に見える*「感じ」*になる。曇天か雨の時は、霧か雲の下に奈良の盆地が沈んでいる。どちらも良い。

良い風景だと思う。

まれに、高峰のパーキングに入る。何か食べたいのではなく、食堂の窓越しに、ゆっくりと眼下の奈良を見たいのである。納得して、また車を一気に天理まで走らせる。

*「一気に」*と書いたが、実はソロソロと降りて行く。それまでは、適当に、自分のペースで気ままに走って来るが、この下り坂では、前にどれだけ遅い車がいっても我慢して、その後を付いて行く。追い越し車線に出ることは絶対にしたことがない。

## 中景（二月堂から）

——これは、わたしの高校時代の記憶が中心になる。高校の授業が終わって、吉野まで帰らなくてはいけない。昔も一応は受験勉強をしなくてはいけないから、早く帰らなければならぬ。ところが結構のんびりしていたと思う。仲の良い友達から誘いがかかって、荒池でボートに乗って時間を無駄にした。り・・・。

一人の時、時々わたしの足は東大寺に向かった。大仏さんを見に行くのではない。まだ入場料などにも必要でない時代ではあったが、わたしの足は大仏殿に向かわずにその横を素通りする。裏手から二月堂に向かっているのである。

二月堂に向かって、ゆっくりとした登りの道、途中から階段になる。道の左手はもう境内ではなくて、すでに一般の民家が並んでいる。

「こんな、大仏さんのすぐ近くに家があって、・・・いいなあ、うらやましいなあ・・・」などと、あまり脈絡のないこと



常に強く記憶に残り続けている場所であり、風景である。

二月堂の回廊に上ると、こんどは矢田丘陵と生駒の山が一杯に目に入ってくる。ウーンと、しばらく見入っている。これもよい風景だと、いつも思った。

ちょうど季節が合うと、わたしが行く時間が、生駒に日が落ちるのにピッタリ合うことがあつ

た。そんな時は、ずっと、完全に生駒に日が落ちるまで、念入りに見ている。日が落ちたのを見届けて、納得して・・・、後は良弁杉の横を足早に通って駅に向かう。なにしろ、一時間半かけて家まで帰らなくてはいけない。

大学に入って何回生の時か、良弁杉が倒れた、と聞いて非常に驚いたものであった。たしか、

確かめるために足を向けた、と思う。ごく小さい若木が植えられていたはずである。すぐにダメになって、今の木は三代目だと聞く。大きく育って、立派な大樹になって欲しい。

高校三年の時、卒業アルバムを作るようになって、わたしも、その委員になった。『ありきたりの写真集はヤメにしよう』ということになって、クラスなど関係なく、任意のグループで、気に入った場所を決めて、一枚撮ってもらうことになった。わたしは仲の良い二人と相談して、良弁杉の前で撮ってもらった。今も探せば、どこかに残っているはずである。

## 近景（垂仁天皇陵）

——西ノ京駅を過ぎて、少し上の線路をスピードを落としたり、電車が尼ヶ辻駅に近づくと、垂仁天皇陵が見えてくる。わたしの頭の中では、電車が少しスピードを落とすことと、垂仁天皇陵が見えてくるのがセットになっている。昔、毎日通った頃も、今、毎週通る時も同じ感覚で、



変わらない。いつも、姿の良い古墳だと思った。これも今も変わらない。

唐招提寺を出て線路を渡る。古墳に向かうカーブした小道をゆっくり登る。古墳の横に出ると、気候の良い時など、結構な人出の時がある。車が止めてある。自転車が止めてある。できるだけ横の人を気にせずに立ち止まるか、腰を下ろすことにしている。時間がある時など稀に、裏側に回って一周を試みることもある。尼ヶ辻駅のすぐ北側の細い道は、何回も通っている。車で通るのだが道のすぐ横に陪塚が見える。『みんな、気が付いてるかなあ』と思いつつながら通り過ぎる。

今の大学は奈良の北の端の少し高い丘陵の上にある。赴任してきて、すぐに気が付いた。本館屋上から奈良の盆地が一望できる。垂仁天皇陵は、ちょうど視界の真ん中あたりに見えている。少し上から見下ろす角度である。しかし、屋上から見ると垂仁天皇陵は、『単に』一つの古墳である。

同じものを見るのに、『どこから、どの方向に、どの角度で』

ということとは、非常に意味があるのだと思う。わたしにとって垂仁天皇陵は、電車の中から、あるいは周濠の横の小道から、少し見上げるのが良い。立派に見える。



## 山田 正浩

[やまだ まさひろ]

1942年生。名古屋生まれで奈良育ち。1968年、京都大学大学院地理学専攻修士課程修了。金沢大学教育学部助手、愛知県立大学文学部講師、助教授、教授を経て、現在、奈良大学文学部地理学科教授。専門は人文地理学。研究テーマは、日本の近代化の過程における村落社会の変貌について、韓国の伝統的村落について、韓国の地域研究。今も日本と韓国を往復している。



奈良の  
artist

02

マリンバ奏者

# 松本 真理子

Matsumoto Mariko

音楽には心を動かす力があります。マリンバ奏者・松本真理子さんのマレット（ばち）が弾く音の連なりは、聴衆の感情を駆け巡り、無数の物語を紡いできました。奏でる、育てる、創ります。松本さんの制約なき音楽の世界をたどります。

心が動くマリリンバ演奏を。  
プロに中途半端はありません。

「数曲、弾いてみましょう」。  
訪れたマリコマリンバスタジオ（大和郡山市横田町）で、松本さんがマレットを振ると、マリリンバの鍵盤の上で音色とリズムがいきいきと踊り始めました。曲の中から砂漠やコンドル、月や桜の情景が次々と浮かび上がり、松本さんの表現力が押し寄せます。スタジオに贅沢な時間が流れていきました。

松本さんとマリリンバの出会いには、大和郡山市立治道小学校三年生のころ。担任の西村秀夫先生が巡り合わせてくれました。

「私は五人きょうだいの真ん中。

活発でおてんばでした。西村先生から『まりちゃん、マリリンバの練習せえへんか』と誘われたとき、両親の影響で音楽は好きでしたし、マリリンバを弾いてすぐ楽しかったんです。本格的に習い始めたのは小学五年生から。技術だけでなく、音楽の理論や礼儀などを、小川順子先生（現関西マリリンバ協会会長）から学びました。

年間約七十回の演奏会をこなす松本さん。「演奏を聴くことが生きがい」と応援してくれる高齢のご婦人、初めて聴くマリリンバに瞳をキラキラさせる小学生。生のステージは「心を動かす演奏がしたい」と話す松本さんの真骨頂です。

「ステージでは私の存在価値は

何だろうと考えます。私のマリリンバで力が湧いた、元気になったという感想を聞くと、その私に沈んでいたらいけません。コンディションづくりも大切です。辛口の意見をいただくこともあり、もっと勉強しなければと思っています。プロの演奏家に中途半端はないんですよ」

マリリンバと向き合って五十年以上。生涯の相棒の前で、腕を使い、足を踏み鳴らし、声を発し、豊かな表情を見せる松本さん。表現したい音楽を五体五感で届けています。

活動は音楽を飛び出して。

マリリンバ原点に広がる世界。

主宰するスタジオで後進育成にあたることは、演奏と両輪のライフワーク。「入口だけでなく、出口もつくりたい」と、新人演奏会やボランティア演奏会などデビューの機会づくりにも積極的です。多くのレッスン生が松本さんの元を巣立ち、さらなる研鑽を重ねて、国内外で活躍。松本さんを喜ばせています。

二〇一〇年四月には「おとなのマリンバレッスン」を開講。若いころにやる機会がなかった、今から始めても大丈夫？など、

音楽へのあこがれを持ち続ける方々がスタジオに集います。

マリリンバは松本さんをさらに広い世界へ導いてくれました。奈良県教育委員長を務めたことは教育分野の視野を広げ、さまざまな業界の人たちとの交流で見識が深まりました。

また、いきいきと演奏できない教え子を見て、心に憂いがあるのではと考えるようになり、専門的に一年間学んで、今春、臨床心理カウンセラーの資格を取得しました。

「年齢を重ねてもやれることがいろいろと見え、一方で、立っているフィールドは変わってきました。人との関わりの中で精いっぱいやるという気持ちは今まで通り。人に寄り添い、心を通わせて、夢を持ち続けたい」と意気軒昂です。

六月五日には橿原文化会館で、群馬県在住の兄・松本梅征さん（三味線奏者）と共に、東日本震災支援のための「どんぐりの会・チャリティーコンサート」に無償出演しました。

松本さんにとって、音楽は最高の自己表現。マリリンバから出発した一つの「点」が、恩師や人との出会いによって「線」を結び、やがて境界のない「面」となり、広がり続けています。



#### Profile

大和郡山市生まれ。県立郡山高校から京都市立音大(現芸大)に進み、マリリンバ科を首席修了。年間約70回の演奏活動のほか、マリコマリンバスタジオ主宰、作曲、講演、大阪芸大非常勤講師など多彩に活躍している。関西打楽器協会副理事長、元奈良県教育委員長。8月20日に45周年記念のマリコマリンバスタジオ定期演奏会を秋篠音楽堂で開く。

【公式HP】<http://www.marikomarimba.com/>

## 道の駅



station

①

## 針テラス

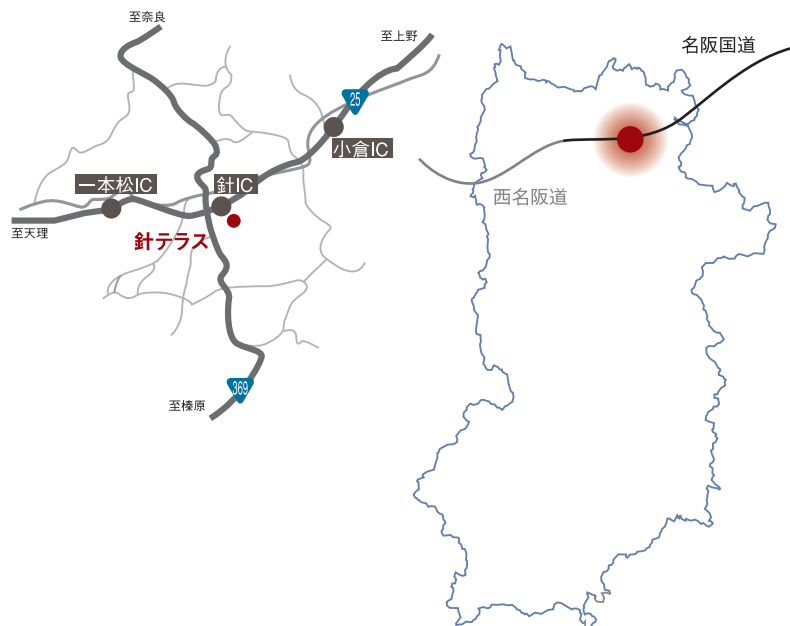
西日本最大規模の  
賑わいステーション

走り続けることに疲れたら、アクセルを緩めてピットインしよう。そこは「道の駅」という名のオアシス。癒し・味わい・レジャー・情報など、多彩な機能を備えた奈良県の「道の駅」を巡ります。

名阪国道を快走中、針テラスが見えてきました。開放感あふれる駐車場（普通車四七〇台、大型車四〇台、身障者用三台）には、ドライブ中の自動車が次々とやってきます。大型バイクがずらりと並ぶのも、針テラスではおなじみの光景です。

全国に九七〇カ所（二〇一一年三月現在）ある「道の駅」は、いまやドライブインの枠を越え、テーマパークの風格さえ漂わせています。建物を南イタリア風にデザインした針テラスも、名物レストランや土産店、観光農園や温浴施設など、マルチな機能を備えています。

「道の駅には農産物を買に行く」という人が近年増えていくようで、針テラスには農産物直売所が二カ所あります。新鮮・安心・お手ごろ価格はもちろん、「わたしは今が一番おいしいよ」と言いたげな野菜たちのピチピ



チした旬の顔と出会えるのも楽しみ。梅雨が去り、夏がじりじりと近づいてくると、キュウリやトマト、オクラや枝豆などがおいしい季節です。

ランチに大和ポークのソースカツ丼を食べて、シヨップを覗いて、観光情報をチェックして…。ドライブ休憩にちよつと立ち寄るつもりが、つい長居をしてしまいました。大粒イチゴを丸ごと使った「イチゴ大福」をほおばりながら、針テラスを出発。気分は晴れ。目的地まで残りの道中も視界良好です。



## 大和ポークな 針テラスフード

地元食材を使った料理を味わうことは道の駅のお楽しみ。今回は針テラスの大和ポーク特集です。



**大和ポークと地野菜の  
セイロ蒸し定食(うどん入り)  
780円**  
ほわんと蒸しあがった食材をごまがしてヘルシーにいただきます。うどんも一緒に蒸しており、満足できるボリュームです。



**大和ポークのソースカツ丼  
600円**  
キャベツたっぷり、ソースたっぷり。ドライブの中継点である針テラスのフードコートにこれほど似合う丼はありません。



**大和ポークと地野菜の皿うどん  
700円**  
具だくさんのあんが麺の上になだれ込んでいます。直径30センチ以上のお皿で登場。完食すると、別腹がなくなります。



**大和茶ゴーレット**  
サクサクとしたゴーレットに、大和茶を使用したクリームをサンド。ほんのり甘く、お茶の香りがします。525円(12枚入)



**夢柿**  
ビタミンとタンニンを多く含む柿。自然の恵みそのままの干し柿を食べやすいサイズに切り分けました。夏場は冷やして食べるのがおすすめ。12個入り650円。



**イチゴミルク大福**  
大粒のあすカルビーが鎮座する針テラス定番の大福。イチゴとミルクを練りこんだ餡がほどよい量で入っています。200円

**レアチーズクリーム大福**  
名前のごとく、イチゴの台座となる餅がクリームチーズを包み込んでいます。大人の男性ならひとくちサイズです。200円

## お土産を 買おう

名産品のお菓子、気軽に食べたいおやつ。四方から来て、八方へ向かう車やバイクが集う道の駅はお土産の宝庫です。

## shopping

### 新鮮とれたて旬の野菜

## つげの畑高原屋



地元・都祁高原で育った新鮮野菜や加工食品、手づくり味噌など幅広くそろいます。

## とれしゅき市場

今年3月にオープンしました。大和野菜を中心に農家直送の“旬”が勢ぞろい。



## ノースリリィショップ

地域の特産物や限定土産が豊富に並びます。名阪国道を名古屋や伊勢方面、または大阪に向かうときは奈良土産をここでチェック。



## leisure

### 道の駅ではレアな農園体験

## 針テラスベリーファーム



春のイチゴ摘みをメインにした観光農園。バーベキューも人気。6月下旬ごろからブルーベリー摘みが始まります。要予約(TEL0743-82-1717)です。



**入園料**  
イチゴ園…40分間の食べ放題  
【12月～3月】  
大人(11歳以上)1,700円  
小人(4歳～10歳)1,500円  
3歳以下300円  
【4月～5月】  
大人(11歳以上)1,600円  
小人(4歳～10歳)1,400円  
3歳以下300円  
【6月】  
大人(11歳以上)1,500円  
小人(4歳～10歳)1,300円  
3歳以下300円

**営業時間**  
10:00～16:00  
(4月以降土日祝は17時まで)  
最終入園は15時30分  
(4月以降の土日祝は16時30分)  
イチゴ園期間:12月6日～6月末

### 旅の疲れもゆったり浸かってrefresh

## 都祁温泉



温泉、プール、サウナ等を備えたリフレッシュ&リラクゼーション施設。ゆったりと湯につかるのもよし、アクティブに運動するのもよし。思い思いに楽しめます。

TEL 0743-82-2619  
**営業時間** 10:00～21:00(入館締切 20:30)  
**休館日** 毎月末日(但し、土・日・祝の場合はその前日)  
施設点検の都合により、変更する場合があります  
**料金**  
プール・温泉利用  
大人(中学生以上)1,400円  
小人(4歳以上小学生以下)800円  
温泉利用  
(お風呂) ※お得な回数券も販売しております。  
大人(中学生以上)700円  
小人(4歳以上小学生以下)400円  
毎月26日(ふろのひ)は温泉・プールの利用料金が半額です。  
※当日の回数券をご利用できません。

# 東京都 正岡子規の足跡

「柿くへば 鐘が鳴るなり 法隆寺」という超有名な俳句を残し、日本の近代文学に多大な影響を及ぼした、明治時代を代表する文学者の一人である正岡子規。最近、司馬遼太郎原作のテレビドラマ「坂の上の雲」で脚光をあびています。今回は東京のJR山手線沿線にある子規ゆかりの場所をご案内いたします。

では、東京駅を基点に山手線で行く子規の旅を始めましょう。

東京から神田・秋葉原・御徒町を通過して最初に降りる駅は上野です。



## 正岡子規

(一八六七年一〇月十四日～

一九〇二年九月十九日)

俳人・歌人・国語学研究者。名は常規(つねのり)。幼名は処之助(じころのすけ)で、のちに升(のぼる)と改めました。俳句短歌・新体詩・小説・評論・随筆など多方面にわたり創作活動を行いました。

### 上野駅 —— 正岡子規記念球場

上野と言えば上野公園が有名ですが、この場所に子規ゆかりの場所があります。それが、正岡子規記念球場です。意外に思われる方もいるでしょうが子規は野球の愛好者でした。

#### 春風や

まりを投げたき

#### 草原

上野公園には動物園や美術館などまだまだ楽しいところはたくさんあるのですが、今回は子規の旅なので次に参りましょう。

上野駅となり、鶯谷駅を降りますと、子規の終生の住居、子規庵があります。

### 鶯谷駅 —— 子規庵

鶯谷駅北口を出て十分ほどでいけるのですが、駅周辺には案内板がな



いので注意してください(「笹の雪」という豆腐料理さんの方に向かうとわかりやすいです)。

子規庵は正岡子規三十五年の生涯のうち、病没までの十年間を過ごした場所です。

見た目はごく普通の木造家屋で、玄関から入ると二畳間があり、左には律(妹)の四畳半の部屋、右には八重(母)の三畳間と横に台所があります。

二畳間の奥には部屋が二つあり、

左が子規の自室です。ふすまを隔てた右側は子規庵で一番広い八畳間で、句会や歌会が開かれたそうです。

その八畳の部屋から庭を見ますと、大きな糸瓜(へちま)がたくさんぶら下がっているのが印象的でした。子規の作品に糸瓜が多いのも納得です。

となりの子規の部屋には真ん中あたりがくり抜かれた机があり、不思議に思いましたが、子規が病状の悪化でひざが曲がってしまった真つ直ぐにもどせなかつたので、この穴にひざを入れて立膝状態で句や歌を作

正岡子規記念球場(正式名は上野恩賜公園正岡子規記念球場)は、東京都台東区上野恩賜公園内にある球場で、少年野球や草野球などに利用される東京都管理のレクリエーション施設。

正岡子規は、明治初期に日本に野球が紹介されて間もない頃の愛好者であり、野球場がある上野公園内で野球を楽しんでいました。子規の随筆「筆まかせ」の中に、1890(明治23)年3月21日午後、上野公園博物館横の空き地で試合

を行った事が書かれており、その時子規は捕手を務めていた内容が書かれています。子規は野球を題材とした俳句や短歌・小説・随筆を発表して野球の普及に貢献、数々の野球用語を日本語訳したことも知られます。このような功績を称え、上野恩賜公園開園式典130周年を記念し、2006(平成18)年7月21日に上野恩賜公園野球場で句碑の除幕式と正岡子規記念球場の愛称が披露されました。句碑には「春風や まりを投げたき 草原」の句が刻まれています。





子規庵  
入庵時間／10:30～12:00 13:00～16:00 入庵料／500円  
所在地／東京都台東区根岸2-5-11 電話／03-3876-8218  
公開日／月曜日を除く毎日（但し月曜日が祝日等にあたる時は翌火曜日休）

糸瓜咲て痰のつまりし佛かな  
をととひのへちまの水も取らざりき  
痰一斗糸瓜の水も間にあはず

成していたそうです。子規の生き様を少し垣間見た気がします。

庭に出て、いろんな草花など見学しますと出口に特別展示がありましたので、それも拝見いたしました。

特別展示は子規の妹、律が子規にどのような看護をしてきたのかがわかる資料や子規が生きたために食べる事に執着していた事がわかる当時の献立などが展示されていました。



羽二重団子は、平べったい団子でこしあんとし醤油の2種類

### 日暮里駅——羽二重団子

ここに来て初めて知りました妹、律という人の存在には非常に驚きました。  
子規の生きる事への情念ともいえる生き様の凄さよりも、兄弟愛なんて言葉では語る事ができない律の壮絶な看護生活の方に私は感銘を受けました。

子規庵を出て、日暮里駅の方に進んで行くと、根岸では有名な「羽二重団子」のお店があります。  
この羽二重団子は創業文政二年（一八一九年）の団子屋さ

んで、正岡子規をはじめ、夏目漱石・司馬遼太郎といった文豪たちの作品の中にたびたび登場しています。

### 芋坂も団子も 月のゆかりかな

初代の庄五郎が芋坂の「藤の木茶屋」で王子街道を往来した人々に団子を売ったのが始まりで、この団子が「きめ細かく羽二重のようだ」と評判を呼んでこの名前がついたそうです。

### 田端駅——大龍寺

さて、腹ごしらえも終わり、最後に子規が眠る大龍寺へ向かいましょう。日暮里駅より西日暮里を通り、田端駅へ。

田端は文豪、芥川龍之介のゆかりの地でもあり、駅を降りると田端駅通り商店街マスコットキャラクター「りゅうのすけくん」に出会います。

駅から十分ほど歩きますと大龍寺に到着。いきなり山門にあの水戸黄門様の印籠と同じ家紋があり驚きました。きっと由緒あるお寺なんだなと知識のない私でもわかりました。

お寺の墓地に入りますとたくさんのお墓があるのですが、地図があるわけでもなく、人がひとりもない墓地で、子規のお墓を探すのは困難で怖さも感じましたが、なんとか見つけ出して手を合わせました。最近では有名人のお墓をめぐるのが流行しているようですが、私はお墓の写真を

撮るような失礼なこととはしたくなかったので、写真は撮りませんでした。興味のある方は是非、参拝に来てください。

この旅の最後に子規の残した言葉をご紹介します。自分の命や他人の命を大切にしていけない事件が多い現在に送りたいと思います。

「悟りは平気で死ぬことではなく、どんな場合でも平気で生きることで、しかも楽しみを見出さなければ生きていく価値がない」



大龍寺 所在地／東京都北区田端4-18-4 開門時間／9:30～16:00 閉門日／毎週月曜日、1月4日～8日

大龍寺の創建は明らかではありませんが、慶長年間（1596～1615）に不動院浄仙寺が荒廃していたのを、天明年間（1781～1789）になって湯島雲雲寺光海の高足光頭が中興して、大龍寺と改称したと伝えられています。

正岡子規は、「静かな寺に葬って欲しい」と、日頃から弟子に話しており、武蔵野台地の端にあり、林に囲まれて静かなこの寺が選ばれたそうです。お墓は大きくはありませんが、横に自撰の碑文があり、松山藩士の子である

ことや、陸羯南（くがかつなん）の日本新聞の月給が40円であったことまで書かれています。竹ノ里人の号にちなんで植えたのが、墓の後ろには竹が茂っています。

# 印刷文化逍遥 22

## 本の今昔

本の今昔の話となると、やはり製本仕様のことになってしまふ。昔は和紙に木版刷りの糸綴りや糊付けの本が中心で、針金綴じや今日のようなボンドで接着することはなかった。その代わり、上製本の本は膠にかわを使い、頑丈に仕上げられていたことを思い出す。

それは辞典などの分厚い本で、真ん中から本が割れないように工夫されていた。背には白いガゼのような布（寒冷紗）が使用され、本がたやすく壊れないようになつていた。

試みにいくつかの本を参考にして話を進めたい。最初に青土社の『ランボー全詩集』を挙げたい。サイズは菊判でクロス仕上げ。ページ数は八百二十七ページ。平成

六年（一九九四）六月の発行で、紙貼箱となつている。

古来、詩集の存在は重要視され、本書は訳詩集では上位にランクされている。

次は、これまた詩集だが、『ポオドレエル全集1』で、訳者は斎藤磯雄である。発行は昭和二十九年（一九五四）四月二十五日で、当時の価格は八百円であった。今日では一万円近い価値があるだろう。

この本はボードレールの詩集『悪の華』の翻訳で、現在ではちょっとしたの稀書に入らるだろう。使用活字も旧漢字で、そのうえ旧仮名遣いとなつている。版元は創元社であった。

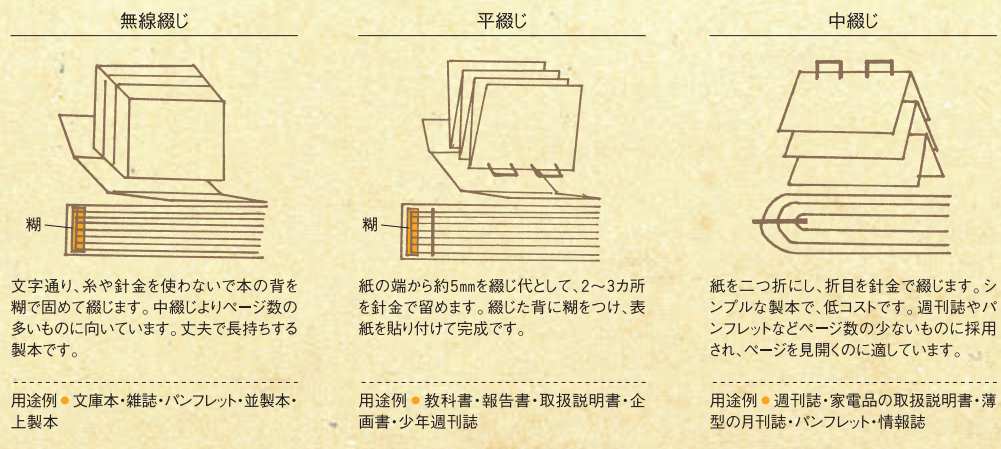
ランボーもボードレールも春の頃から愛読しており、二冊とも形見的な存在になつている。三冊目は、荒正人著・小田切秀雄監修の『漱石研究年表』（増補改訂）である。発行は昭和五

## 製本形態の変遷

一般に四世紀とされる本の誕生から、紙を束ねて紐で綴じる、皮革や金属を用いて堅牢にする、携帯性や汎用性に考慮して軽く丈夫に仕立てる―など、製本はさまざまな改良過程を歩んできました。製本にも着目すると、本との出会いが楽しくなります。

## 現在の製本形態

本の仕様や使われ方によって、製本にも向き不向きがあります。製本方法を選択する際には、コスト優先か、耐久性重視かなどもポイントです。家庭用の製本キットも市販されていますので、興味のある方はチャレンジしてみてください。



十九年（一九八四）六月二十日  
となつている。

漱石研究者には欠かせぬ一冊  
だが、文字通り、荒正人の渾身  
が込められた一冊ということが  
できよう。

このほかにも色々あるが、あ  
まり冊数をあげても仕方あるま  
い。ただ、若い頃から本が好き  
で、貧しい財布から惜しげもな  
く買い求めたもので、どの一冊  
も懐かしいの一語に尽きる。

話のついでにもう一、二冊を  
紹介することにする。このごろ  
は電子図書もできて、ページ数  
のある重い本を買う人はあまり  
いないが、次の二冊も結構ペー  
ジ数があり、重量もある。

まず西條八十の『アルチュエ  
ル・ランボオ研究』だが、これ  
は八十が生涯を賭けた一冊とい  
うことができよう。昭和四十二  
年（一九六七）十一月初版発行  
で、私の所有本は昭和五十三年  
（一九七八）五月発行のもの。  
いずれも書格のうえからいうと  
立派なものといえる。

最後は河盛好蔵の学位論文の  
一冊ともなった『パリの憂愁』  
である。版元は河出書房新社で、  
定価は三千八百円。これが古書  
で千五百円であった。副題は—

ボードレールとその時代—となつ  
ていて、昭和五十三年初版の一  
冊である。

結局、私の掲げたものは一部  
の好事家にしか読まれず、決し  
てベストセラーになるようなも  
のではないが、世の中にはベス  
トセラー以外にこそ良書がある  
ことを知らせる良き機会を与え  
られたと思つてゐる。

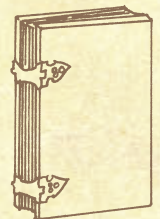
考えてみると、近ごろの本に  
は良書が少なく、見つけるのに  
苦勞するが、反対に昔は良書が  
たくさんあったといえるのでは  
ないだろうか。

参考までに記しておく、『パ  
リの憂愁』は薄黄土色の布表  
紙で、背文字は銀の箔押しになつ  
ている。そして本の背の下端  
には「河出書房新社」と横文  
字で空の箔押しとして収まっ  
ている。

本文は9ポイント活字の一段  
組みで、読みやすい組版になつ  
ている。恐らく最晩年の活版印  
刷として記録にとどめることになつ  
たといえる。印刷は三松堂印刷、  
製本は大日本印刷となつている。

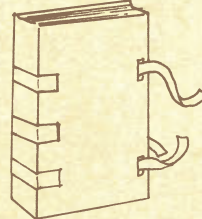
なお、本書は日本人が書いた  
最もわかりやすいボードレール  
の伝記となつてゐる。

11世紀初頭～13世紀初頭



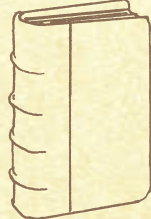
ロマネスク時代の製本  
革テープを支持体として糸で綴じるの  
が主流。背バンドが用いられ、鉸や留  
め具をつけます。

16世紀



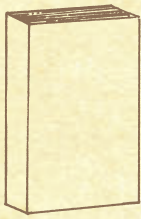
リンプ・ヴェラム装  
仔牛の皮で柔らかい表紙に仕立てた  
簡易製本の一形態。

18世紀



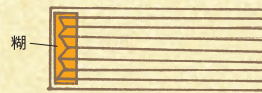
現代的な製本の一步手前。製本にも  
効率や経済性が求められ、皮革に加え、  
紙製の表紙も普及しました。

19世紀



くろみ製本  
本文を束ねて表紙でくるむように糊付  
ける製本方法。

あじろ綴じ



無線綴じの一種。本の背に切れ目を入れ、そ  
こから糊を浸透させて固めます。無線綴じよ  
りも丈夫で長持ちします。ページを見開くに  
も便利です。

用途例 ● 一般書籍・辞典・並製本・上製本

糸綴じ



本の背を糸で互い違いに組んで編み、綴じ  
ていく製本方法です。丈夫で長持ちするので、  
一般書籍のほか、記念誌など上製本に多く  
用いられています。

用途例 ● 一般書籍・百科事典

嘉瀬井 整夫

【かせい ただお】

1934年京都市に生まれる。

1949年より94年まで印刷産業に従事。

奈良県立短期大学（現奈良県立大学）卒業。

主著『井伏鱒二私論』

『奈良大和路文学散歩』

『奈良高畑日記抄』ほか。

文芸評論家。



特集

# 奈良の城

## 郡山城

奈良にも多くの城が存在した。時代の流れと共にそれは城跡となり、私達の心から忘れ去られようとした。再びその存在を知り、そこに息づくエピソードを紐解く。それは、私達のルーツを知ることになる。

### 郡山城の歴史

郡山城は安土・桃山時代に築かれた城で、江戸時代を通じて存続しました。現在、江戸時代の郡山城の城郭中心部は都市計画公園（城趾公園）に指定されており、三の丸の一部や現奈良県立郡山高等学校敷地を除いてその面積は一七・二〇ヘクタールとされています。この部分だけでも甲子園球場の総面積（約二・八ヘクタール）のおよそ四・五倍の広さになります。

郡山城の基礎は安土・桃山時代でほぼ完成しました。すなわち郡山城は、天正八年（一五八〇）に織田信長の命令で筒井順慶によって築られました。天正十三年（一五八五）以降、郡山城は、豊臣秀吉の弟である「大和納言」秀長の居城となり、大和・紀伊・和泉の三ヶ国、合計一〇〇万石ともいわれる広大な地域を治める拠点城郭として大規模に拡張されました。文禄四年（一五九五）に城主となった豊臣政権の五奉行の一人増田長盛の時代、郡山城の外堀の普請が実施されたともいわれます。

### 関ヶ原の戦いで西軍についた

増田長盛が追放された江戸時代に、郡山城は江戸幕府の管理下に置かれ、徳川氏の有力な一門でもある松平忠明・信之、有力な譜代であった水野勝成・本多氏らが城主となりました。そして享保九年（一七二四）、柳澤吉保の子息吉里が約一五万石の大名として郡山に転封されて以来、郡山城は信鴻・保光・保泰・保興・保申と六代およそ一四〇年あまり柳澤家の居城となりました。吉里は家臣に、「郡山城は、奈良・大坂・堺に近く、京都の守護を担っている」、郡山城を堅固にすれば京都は安泰になる。郡山城は大和国を支える重要な城でもある」と城主としての心構えを述べています。江戸時代においても郡山城は近畿地方の軍事の要でした。

明治維新後、郡山城は廃城となつて明治政府の管理下に置かれました。郡山城跡は、軍の施設（鎮台・師団など）が設置されなかつたこともあり、修築は加えられず荒廃に任されました。城の材木や石垣などの石材、瓦、一

※2 柳澤吉保  
江戸時代前期の幕府側用人・譜代大名。武田遺臣柳澤氏の出自で、元禄時代には大老格として幕政を主導。これも第5代将軍徳川綱吉に寵愛されていた所以であり、綱吉の諱の一字を与えられ「吉保」と名乗った。綱吉の死後、自ら幕府の役職を辞するとともに隠居した。

※1 筒井順慶  
戦国時代の大名。織田信長に臣従し、宿敵の松永久秀により苦境に立ったものの、大和国守護になった。僅か36年の生涯であったが大和武士の代表者として名を残している。茶湯、謡曲、歌道など文化面に秀でた教養人であり、仏教への信仰が厚かった。

## 城の特徴



### ●天守台の石垣

郡山城跡の天守台の石垣です。石垣に石材として転用された五輪塔の一部分や「逆さ地蔵」などを間近にみることができます。



### ●逆さ地蔵

天守台北面の石垣に石材として転用されています。仏身約90cm、大永3年(1523)の銘があります。



### ●郡山城跡と躑躅

5月になると、桜に代わって躑躅が新緑の郡山城跡を美しく彩ります。



### ●(財)柳沢文庫

柳沢文庫の車寄せと玄関は、関東大震災からの復興工事で、柳澤伯爵家の東京の邸宅が道路拡張のために立ち退きとなったために、その一部を郡山に移築させたものです。

部の武器も民間に払い下げられました。しかし城地そのものは旧藩士が結成した立本社という組織や学校(現在の奈良県立郡山高等学校の前身)にかつての郭単位で寄付・売却されたので、細分化による乱開発を回避することができました。昭和三五年(一九六〇)に財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会が発足し、現在にいたるまで郡山城跡の維持・管理を図っています。

## 天守閣の存在

郡山城の天守閣の位置は、筒井順慶期には諸説ありますが、豊臣秀長期には現在の郡山城跡天守台周辺であったと考えられます。しかし、その後のいづれかの時点で火事などで失われ、再建されずにその跡が天守台として残されています。天守閣は儀礼的な場であるとともに、籠城の際に立て籠もる場所でした。江戸時代の平和のなか、天守閣はその維持に多額の費用を要し、

かつ火災や落雷の恐れがあったので、再建が放棄される場合もありました。他方で二の丸の御殿(現在の奈良県立郡山高等学校敷地に所在)が当主の居住空間であると同時に儀礼の場も兼ねていきました。

現在、郡山城跡に残る天守台の石垣には、五輪塔の一部分などの墓石、平城京の羅城門の礎石と伝えられる石、そして石仏(「逆さ地蔵」)などが用いられています。今からみれば罰当たりな印象を受けるかも知れませんが、急速に石材を確保しなくてはいけないという切迫感や、神仏にも屈しないという意図を見取ることができるかもしれません。

## 現在の城の観光

例年三月末から四月初め、桜の花の盛りにはお城まつりが開催され、大変にぎやかです。これに先行して郡山城跡の櫓(やぐら)で二月から開催される盆梅展も周知

されるようになってきました。五月には柳沢文庫前の四阿(あやま)が躑躅で美しく彩られ、秋には紅葉が楽しめます。冬は、一年で最も美しく石垣を眺めることができます。郡山城跡では明治期に細分化されて払い下げられなかったこともあり、三の丸を除いてほぼ江戸時代の郭のままに区画が残っています。旧毘沙門郭には柳沢文庫、旧天守郭には柳澤神社、御殿のあった二の丸は郡山高等学校と、かつての郭に立つ建物は江戸時代と異なりますが、往事を偲びながら散策することができます。地域住民の方々にも親しまれています。

著／柳沢文庫保存会学芸員 平出 真直



### アクセス

電車でのアクセス／近鉄橿原線・近鉄郡山駅から徒歩約10分  
車でのアクセス／西名阪自動車道郡山ICから国道24号、奈良県道9号  
城内に無料駐車場あり

※3財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会  
柳澤保承(やなぎさわやすつぐ)の発意によって郡山城内の毘沙門郭に設立された地方史誌専門図書館。郡山城跡の保存整備、所蔵する歴史史料など、一般蔵書を公開している。展示室では、常設展・特別展を行ない、他に市民講座を開催し、柳沢史料集成など出版活動もしている。

命が吹き込まれる

木林があり



松本真理子氏が使用するマリンバの音板とマレット（音板をたたく“ばち”）

Imajin21

今  
創  
造  
人

悠久の歴史の流れ、古の都は  
今も、その面影を色濃く残す  
いくつものドラマがあり  
新たな時代が生まれた  
そこから先人の英知を知り  
人を見つめ直す  
そして「今」を創造す

樹が育ち

KYODO SEIHAN PRINTING



そして紙ができ



本誌は、「FSCミックス認証紙」を  
使用しています。

